
定員オーバー

おこめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

定員オーバー

【Nコード】

N7969T

【作者名】

おこめ

【あらすじ】

肩が濡れてる相合傘、幸せそうなのはなぜでしょうか？

鬱陶しい

止まない雨

濡れる足元

ふさがる右手と

跳ねる髪

梅雨って本当参っちゃう

じめじめしてるし大嫌い

特に参る理由はこれ

「もつと近づかなきゃ濡れちゃうよー？」

相合傘とかいうフィールド

ただ傘に二人入って定員オーバーなだけなのに

どうして無性に腹が立つ

一人がおかしいわけじゃない

だって傘は一人用なわけだし

ムカムカくる理由はたぶん

幸せが漏れ出してるから

たぶん私はあれが羨ましい

ため息ついて歩きだす

今日も傘の中は孤独

止まない雨とにらめっこ

憎いのはどっちなのよ

「中に入れて」

突然上から天の声

振り向くとびしょ濡れの知った顔

今しゃべったのは君ですか？

髪から落ちる水滴が気になって

ひよいて傘に招いてあげた

不本意そうな顔がおかしい

嫌なら濡れて帰りなさい

高い君に合わせるため

傘を持つ手を高くした

ちよつと腕が辛いかなって思ったら

ぶつきらぼうに持ってくれた

私の方に傘傾けてるけど

それじゃあ君が濡れちゃうよ

いつもはこんなに優しくない

不器用な仕草に戸惑うけど

近いから分かるのかな

君の隣は暖かい

嬉しいなんてきつと嘘

狭すぎる空間が楽しいなんて

この位置に憧れていたから

変な錯覚を起こさせる

君が気になるなんてそんなこと

満員の傘の中

二人だけの閉じた世界

狭すぎる二人の距離が

ずっと続いて欲しいって

君に見えないように今

小さく小さく祈ります

「定員オーバーです」

雨の音で聞こえない

私の恋の始まりは

定員オーバー

この中にはもう誰も入れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7969t/>

定員オーバー

2011年10月8日18時11分発行